

公益財団法人 日本ソフトボール協会機関誌

# ソフトボール

2026年/令和8年  
第494号

5月号  
(毎月1回10日発行)

編集兼発行者 公益財団法人 日本ソフトボール協会

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 Japan Sport Olympic Square

T E L . 03-5843-0480 F A X . 03-5843-0485

編集部 ㈱日本体育社 〒113-0033 東京都文京区本郷2-40-13-501

T E L . 03-3811-6911 F A X . 03-3811-6290



第55回日本男子ソフトボールリーグ第1節(2026.4.10~13/広島県尾道市)

## C o n t e n t s

・第44回全国高等学校男子選抜大会 .....	2	・第55回日本男子リーグ第1節 .....	14
・第44回全国高等学校女子選抜大会 .....	4	・ニトリ JD.LEAGUE 2026 第1節 .....	18
・第22回都道府県対抗全日本中学生男子大会 .....	6	・ソフトボールシーズン到来! .....	22
・第22回都道府県対抗全日本中学生女子大会 .....	8	・事務局だより .....	24
・第19回春季全日本小学生男子大会 .....	10		
・第19回春季全日本小学生女子大会 .....	12		

# ●第44回全国高等学校男子選抜大会●

令和8年3月20日（金・祝）～23日（月）高知県高知市／高知県立春野総合運動公園



ベスト4に名乗りを上げたのは、福島県立郡山北工業高等学校、愛媛県立東温高等学校、豊川高等学校（愛知）、広島県立御調高等学校。いずれも「初優勝」を狙う「勢いあるチーム」が最終日の戦いに挑んだ。



「球春」到来！高校生男子が爽やかなプレイで魅力！！

「球春」の訪れを告げる「第44回全国高等学校男子選抜大会」が高知県高知市／高知県立春野総合運動公園を舞台に開催され、全国各都府県の予選を勝ち抜いてきた「41チーム」（※地元・高知が4チーム（内一つは連合チーム）出場）が集結。高校男子「春の日本一」をかけ、4日間にわたり熱戦が繰り広げられた。

特筆すべき記録としては、豊川高等学校のエース・板倉侖和投手が3回戦／岡山県立新見高等学校・岡山県立高梁高等学校戦で大会史上32回目となる「無安打無得点試合」（※投球球83、三振12、内野ゴロ8、バント1、出塁・四球1）を達成した。

〔準決勝〕  
東温高 4-1 郡山北工業高



東温・高木凱司が2本塁打を放ち、大暴れ！

先攻の東温は初回、1番・高木凱司がレフトスタンドへいきなり先頭打者ホームランを叩き込み、先制。郡山北も2回裏、相手守備の乱れに乗じて1-1の同点とした。迎えた3回表、東温は一死一塁から2番・船本烈風が三遊間を破る安打。これに相手守備の乱れが絡む間に一塁

走者が一気に生還を果たし、勝ち越しに成功。1点リードのまま迎えた終盤6回表にも追加点を奪い、7回表には1番・高木凱司がセンターバックスクリーンを越える「特大」「文句なし」の一発！この試合2本目となるソロホームランで4-1とリードを広げ、そのまま快勝。決勝進出を決めた。

〔準決勝〕  
豊川高 3-1 御調高

序盤は両チーム得点を挙げられず、0-0。試合が動いたのは4回表、豊川は2番・中村真央の中越二塁打を足場に一死二・三塁の好機を作り、5番・眞河優之介がレフトへ「会心の当たり」のスリーランホームラン！大きな3点を先制した。



4回表、スリーランで先制

守っては、「エースでキャプテン」文字通り「チームの大黒柱」である板倉侖和がこの試合も力投。その裏、1

点を返されはしたものの、流れは逆さず、3-1のまま完投勝利。初の栄冠に王手をかけた。

〔決勝〕  
豊川高 2-1 東温高

大会屈指の好投手と評される「両エース」の「投げ合い」が注目された決勝は、初回、2回と互いに無得点。豊川は3回表、9番・渡辺大翔の投手強襲安打を口火に二死一・三塁のチャンスを得ると、4番・狹沢海友のシ

ョートへの当たりが守備の乱れを誘い、1点を先取。なお二死一・二塁のチャンスが続き、5番・眞河優之介が二遊間を抜くタイムリーを放ち、この回2点目を挙げ、試合の主導権を握った。投げては、「5連投」のエース・板倉侖和が味方打線の援護を力に変え、4回裏、1点差に迫られながらも2安打・10三振の熱投！2-1と最少得点差を守り抜き、念願の「日本一」へ登り詰めた！！



5連投のエースが熱投！！

大会トーナメント表、全試合インニングスコア、決勝ダイジェストはこちら！



# 第44回全国高等学校女子選抜大会

令和8年3月20日（金・祝）～23日（月）  
大阪府岸和田市・奈良県広陵町・和歌山県紀の川市／浜工業公園球技広場 他  
記録提供：大阪府協会記録委員会



## 兵庫大学附属須磨ノ浦高等学校（兵庫） 3年ぶり4回目の優勝！



優秀選手・太田真緒  
（千葉経済大学附属高等学校校）



大会 MVP・山本心音  
（兵庫大学附属須磨ノ浦高等学校校）

### 【大会概要】

標記大会が、3月20日（金・祝）～23日（月）の4日間、大阪府岸和田市・奈良県広陵町・和歌山県紀の川市の3県2市1町にまたがり、開催された。大会には各都府県の代表48チームが集結。大会初日、3県2市1町の6球場を使用し、1回戦16試合を行い、2日目も6球場で2回戦16試合を実施。3日目、5球場で3回戦8試合・準々決勝4試合の計12試合を行い、大会最終日は主会場である大阪府岸和田市・浜工業公園球技広場の2球場で準決勝2試合・決勝1試合の計3試合を行い、無事、全日程を終了した。

大会期間中、春先の不安定な天候に悩まされることもあったが、3県2市1町の大会運営スタッフの見事な連携と一致団結、協力体制で乗り切り、予定された日程で大会を終了することができた。  
準決勝には、3年ぶり4回目の優勝を狙う兵庫大学附属須磨ノ浦高等学校（兵庫）、「初」の栄冠へ向け、好調な足取りを刻む鳥取城北高等学校（鳥取）、3回戦、準々決勝と1点差の接戦をしぶとくモノにしてきた神村学園高等学校（鹿児島）、「連覇」をめざす千葉経済大学附属高等学校（千葉）、以上4チームが勝ち上がった。

〈準決勝〉  
兵庫大学附属須磨ノ浦高等学校 3-0 鳥取城北高等学校

大会屈指の好投手・山本心音を擁し、3年ぶり4回目の優勝を狙う須磨ノ浦は2回表、二死走者なしから連続四球で一・二塁とし、9番・大川沙奈が二遊間を抜くタイムリーを放つと、これに相手守備の乱れが絡み、この回2点を先制。須磨ノ浦は4回表にも相手投手の制球の乱れにつけ込み、3四死球で二死満塁の追加点のチャンスをつかむと、1番・今城心花の適時内野安打で1点を追加。3-0とリードを広げた。

守っては、「エース」山本心音が鳥取城北打線に8安打されながらも要所を締め、最後まで得点を許さず、完封。決勝進出を決めた。



須磨ノ浦が決勝進出！

〈準決勝〉  
千葉経済大学附属高等学校 1-0 神村学園高等部

千葉経済・太田真緒、神村・梶目莉空、両投手の投げ合いとなり、息詰まる投手戦を展開。両チーム無得点のまま、試合は延長タイブレークに突入した。タイブレークに入っても、両投手の力投、守備陣の堅い守りをこじ開けることができず、0-0のまま、迎えた延長13回表、千葉経済が犠打でタイブレークの走者を三塁へ進め、2番・巻川瑠衣がスクイズを決め、三塁走者が生還。ついに試合の均衡が破れ、その裏、力投を続ける千葉経済の「エース」太田真緒が神村「必死の反撃」を無得点に抑え、熱戦に終止符。延長13回、2時間45分に及ぶ「死闘」を制し、「連覇」へ「王手」をかけた。



千葉経済が「死闘」を制す

〈決勝〉  
千葉経済大学附属高等学校 0-1 兵庫大学附属須磨ノ浦高等学校

「連覇」を狙う千葉経済は「エース」太田真緒が準決勝で延長13回、168球を投げ抜いての勝利だったこともあり、先発は左腕・八木雪月。その立ち上がり、いきなり先頭打者に四球を与えてしまい、守備の乱れもあり、無死一・二塁のピンチを招き、3番・山本心音にホームラン性の当たりを打たれたが、センター・岡田来羽がこれを好捕。タッチアップから三塁進塁を狙った二塁走者のスタートが早過ぎたとのアピールが認められ、ダブルプレイに……。この好守・好判断に先発・八木雪月が応え、後続を空振り三振に斬って取り、初回のピンチを無失点で切り抜けた。

一方、須磨ノ浦の先発・山本心音は「超高校級」の呼び声に違わぬ「圧巻」のピッチングを見せ、7回終了まで一人の走者も許さぬパーフェクトピッチング（※この試合ノーヒット・ノーランを達成）。0-0のまま、延長タイブレークに突入した。

千葉経済は延長8回表、得点できず、その裏、須磨ノ浦は一死一・二塁の好機に3番・山本心音がショートゴロ。この当たりでダブルプレイを狙ったが、一塁走者をフォースアウトにした後、一塁へ転送した送球が悪送球となり、二塁走者が「サヨナラ」のホームイン！ 息詰まる投手戦を制し、3年ぶり4回目の栄冠を手にした。



須磨ノ浦、サヨナラの幕切れ



決勝戦ダイジェスト動画はこちら



大会結果の詳細、全試合のインングスコア等は、日本ソフトボール協会オフィシャルホームページで

# JOCジュニアオリンピックカップ 第22回都道府県対抗全日本中学生男子大会

令和8年3月26日（木）～28日（土） 熊本県水俣市／エコパーク水俣 特設ソフトボール場

記録提供 熊本県協会記録委員会



標記大会は熊本県水俣市を舞台に、3月26日（木）～28日（土）の3日間にわたり開催された。

大会初日（3月26日／木）は、1回戦・2回戦の計11試合が行われ、2回戦の徳島県選抜対神奈川県選抜の試合で神奈川県選抜・三堀玲雅選手が満塁本塁打を打ち、「連覇」へ向けて弾みをつけた。大会2日目（3月27日／金）は準々決勝・準決勝の計6試合、大会最終日（3月28日／土）に決勝戦が行われた。

ベスト4には、神戸学院大学ジュニアソフトボールクラブ（兵庫）、高知県男子選抜、神奈川県選抜、長崎県選抜が勝ち上がり中学生男子「日本一」の座をかけ、最終決戦に挑んだ。



全国から集まった19チームがしのぎを削った

〈準決勝〉神戸学院大学ジュニアソフトボールクラブ 8-0 高知県選抜

先攻の神戸は初回、3番・畑慧史郎の本塁打で1点を先取。1点をリードしたまま、迎えた4回表にも、一死二・三塁から6番・吉田佳翔の二遊間を破る適時打と7番・小川武蔵の中犠飛、敵失で3点を追加。さらに5回表にも、この回先頭の1番・西海克馬の右中間を抜く二塁打、暴投、四球、盗塁で無死二・三塁と攻め立て、3番・畑慧史郎の左前適時打で二者生還。4番・石川修も一・二塁間を破る安打で続き、犠打で一死二・三塁とした後、6番・吉田佳翔の左犠飛と敵失で2点を加え、この回一挙4得点。8-0とリードを広げた。

投げては、先発・西村颯馬、2番手・畑慧史郎とつなぐ投手リレーで高知打線を1安打完封。初の決勝進出を決めた。



神戸が8-0で5回コールド勝ち。初の決勝へ

〈準決勝〉長崎県選抜 0-1 神奈川県選抜

神奈川県・三堀玲雅が快投し、完封勝利



後攻の神奈川は初回、1番・佐藤暖太の中越三塁打と2番・上野海翔のスライズで1点を先制。この初回の1点をエース・三堀玲雅が守り切り、初回に安打を浴び出塁を許したものの、次打者のピッチャーライナーで併殺。以降は一人の走者も出すことなく、あわや「完全試合」の快投で完封勝利を取め、「連覇」へ王手をかけた。

《決勝》神戸学院大学ジュニアソフトボールクラブ 3-7 神奈川県選抜

先攻の神戸は初回、2つの四球と安打等で一死満塁の先制機をつかむと、5番・岩崎大和の中前適時打で二者が還り、2点を先制。その裏、神奈川も1番・佐藤暖太の左越三塁打と死球、盗塁で無死二・三塁の反撃機をつくり、3番・三堀玲雅、4番・小野田佳悠の連続犠飛で2点を返し、2-2の同点。2回裏にも6番・江崎陸の左越本塁打で勝ち越しに成功。1点をリードしたまま、迎えた5回裏には9番・小澤徠唯の中前安打と1番・佐藤暖太の右中間を深々と破る適時三塁打で1点を加え、2点をリード。さらに6回裏にも3番・三堀玲雅、4番・小野田佳悠、5番・露木孝志郎、6番・江崎陸の4連続長短打と8番・中島蒼弥の三遊間を抜く適時打で3点を挙げ、7-2とリードを広げた。



神奈川県が2回裏、6番・江崎陸の本塁打で勝ち越し

迎えた最終回、神戸の最後の攻撃を1点に抑え、7-3で勝利し、神奈川が「連覇」を成し遂げた。

大会結果詳細、全試合イニングスコアは日本協会オフィシャルサイトで！

# JOCジュニアオリンピックカップ 第22回 都道府県対抗全日本中学生女子大会

令和8年3月27日（金）～29日（日）  
群馬県高崎市・渋川市／宇津木スタジアム 他 記録提供：群馬県協会記録委員会



## 初の栄冠に輝く！

岡山県選抜（岡山）



優秀選手・田島和奏（埼玉県選抜）



大会MVP・赤木未来（岡山県選抜）

### 【大会概要】

標記大会が、3月27日（金）～29日（月）の3日間、群馬県高崎市・渋川市で開催された。

大会には各都府県の代表47チームが集結。大会初日、渋川市・坂東緑地公園の4球場・高崎市群馬総合運動場の2球場、高崎市・箕郷総合運動公園の2球場・計8球場を使用し、1回戦15試合・2回戦16試合を実施。2日目は渋川市・坂東緑地公園4球場で3回戦8試合・準々決勝4試合の計12試合を行う予定であったが、雨の影響で急遽試合会場を変更。坂東緑地公園の2球場がグラウンドコンディション不良で使えず、高崎市・箕郷総合運動公園に場所を移し、何とか予定された試合を行うことができた。大会最終日は高崎市・宇津木スタジアムで準決勝・決勝計3試合を行い、無事に大会の全日程を終了した。

大会最終日の準決勝には、第3回大会以来、19年ぶりの優勝を狙う埼玉県選抜（埼玉）、「初」の栄冠をめざす熊本県選抜（熊本）、岡山県選抜（岡山）、鹿児島県選抜（鹿児島）、以上の4チームが激戦の連続を勝ち残り、大会最終日の「最後の決戦」に臨み、春の中学生女子「日本一」の座をかけ、熱戦を繰り広げた。

### 〈準決勝〉 埼玉県選抜 4-0 熊本県選抜

埼玉は2回表、敵失、犠打、内野ゴロで二死ながら三塁まで走者を進めると、ワイルドピッチで先取点を挙げ、4回表にも一死から6番・小林禮が一・二塁間を抜く安打で出塁すると、代走・中村あん珠を起用。その中村あん珠が立て続けに二盗、三盗を成功させ、三盗を阻止しようとした捕手の三塁送球が悪送球となる間に還り、2点目。終盤6回表にも機動力を駆使した攻めで1点を加え、7回表にも2番・田中優菜のタイムリーでダメ押しの1点を追加。4-0とリードを広げ、先発・田島和奏、左腕・千葉るえとつなぐ投手リレーで熊本打線を完封。4-0の完封勝ちで決勝進出を決めた。



埼玉県選抜が4-0で快勝！

### 〈準決勝〉 岡山県選抜 2-1 鹿児島県選抜



鹿児島県選抜は準決勝敗退

岡山は2回表、「女子U15日本代表」として「第2回女子U15ワールドカップ」で優勝し、「世界一」を経験した鹿児島島の「エース」中村咲耶を攻め、内野安打、犠打、四球、内野安打で一死満塁と攻め立て、1番・赤木未来のタイムリーで二者が還り、2点を先制。

2点を追う鹿児島は5回裏、一死から7番・岩下理乃の中越二塁打から反撃のチャンスをつかみ、二死後、9番・永野由佳のセンター前へのタイムリーで1点を返したが反撃もここまで。1点差で涙を飲み、決勝進出はならなかった。

### 〈決勝〉 岡山県選抜 5-4 埼玉県選抜

岡山は3回表、この回先頭の8番・亀井瑞月が右中間二塁打を放って先制攻撃の口火を切ると、この回3本の長短打を集中し、3点を挙げ、試合の主導権を握った。

3点を追う埼玉は4回裏、四球と内野安打で二死一・二塁とし、9番・小澤友依莉の二遊間を抜くタイムリーで1点を返した。

岡山が3-1と2点をリードして迎えた最終回、埼玉は二死走者なしから3番・茂木咲月、4番・丸山ユミの連打で一・二塁とし、途中出場の5番・佐藤滯璃が起死回生の右越三塁打。塁上の走者を一掃し、土壇場で3-3の同点に追いついた。

延長タイブレークに入った8回表、岡山は一死二・三塁と攻め立て、3番・竹内優のスライズと4番・梅野杏の適時内野安打で2点を勝ち越し。

その裏、埼玉が1点を返したところで力投の「エース」山崎真歩から桜田紅葉に投手交代。この投手交代が見事に当たり、桜田紅葉が後続を連続三振、ショートゴロに打ち取り、ゲームセット。岡山が5-4で逃げ切り、初優勝を飾った。



岡山県選抜、歓喜の初優勝！



JOCジュニアオリンピックカップ  
第22回都道府県対抗全日本中学生女子大会

決勝戦ダイジェスト

2026.3.27~29 / 群馬県高崎市・渋川市



決勝戦ダイジェスト動画はこちら

大会結果の詳細、全試合のインングスコア等は、  
日本ソフトボール協会オフィシャルホームページで

# 第19回春季全日本小学生男子大会

令和8年3月21日（土）～23日（月） 広島県尾道市・三原市／御調ソフトボール球場 他  
記録提供：広島県協会記録委員会

## 横須賀（神奈川県）



# 9年ぶり6回目の栄冠

全国の精鋭44チームが集結し、熱戦展開！



標記大会は広島県尾道市・三原市を舞台に3月21日（土）～23日（月）の3日間にわたって開催された。

大会初日（21日／土）に1回戦・2回戦の計28試合、2日目（22日／日）に3回戦・準々決勝の計12試合、最終日（23日／月）に準決勝・決勝の計3試合が行われた。

ベスト4には横須賀（神奈川県）、加世田ソフトボールスポーツ少年団（鹿児島）、西湘（神奈川県）、倉敷フレンドクラブ（岡山）が名乗りを上げ、小学生男子「春の王者」を決する大会最終日の「決戦」に挑んだ。

〈準決勝〉横須賀 6－1 加世田ソフトボールスポーツ少年団

横須賀が藤田利功の適時三塁打で勝ち越し



後攻の加世田は初回、一死から2番・上村蒼、3番・中野透真の連続二塁打で1点を先取。その後、両チームとも無得点が続く、加世田がそのまま逃げ切るかと思われた。しかし、迎えた5回表、横須賀がついに反撃開始。四球、ワイルドピッチ、犠打、内野安打等で一死二・三塁のチャンスを得ると、まずワイルドピッチで1点を返し、同点。2番・藤田利功のレフト線を抜くタイムリースリーベースで勝ち越しに成功し、3番・亀田隼永のレフト前タイムリーで3点目。さらに敵失と5番・大島一翔のレフト線へのタイムリーツーベースとワイルドピッチで3点を加え、この一回一挙6得点！一気に試合をひっくり返した横須賀が6－1で勝利し、決勝へ駒を進めた。

〈準決勝〉倉敷フレンドクラス 8－3 西湘

渡部晟之介が2回表に2点本塁打！



先攻の倉敷は初回、1番・神崎奏佑の三塁線を破る安打と3番・寺本琉唯のショート内野安打、ワイルドピッチ等で一死二・三塁の先制機をつくと、4番・中村瑠王のピッチャーゴロの間に三塁走者がホームイン。なお二死三塁の好機が続く、5番・鳥越心粋が左中間を破るタイムリーツーベースを打ち、この回2点を先制した。倉敷は1点を返された直後の2回表にも四球で出塁した走者を犠打、セカンドゴロで三塁まで進め、次打者のサードゴロが相手守備の乱れを誘う間に三塁走者が生還。さらに2番・渡部晟之介のライトスタンドへ運ぶツーランホームランでこの回3点を加え、5－1とリードを広げた。4点を追う西湘は2回裏、一死から7番・二宮立暉のショート内野安打と9番・袴田徠希の二遊間への安打等で二死一・三塁とすると、二者連続の内野安打で2点を返し、3－5と2点差まで迫ったが反撃もここまで。倉敷は直後の3回表に1点を加えると、6回表にも9番・横井明守の左中間を抜く二塁打と1番・神崎奏佑のレフト前ヒット等で無死二・三塁の得点機を作り、2つの内野ゴロでダメ押しの2点を加え、8－3で勝利。決勝進出を決めた。

《決勝》倉敷フレンドクラス 3－6 横須賀

横須賀は3回裏、四球、犠打失策、送りバントで一死二・三塁の先制機をつかむと、4番・鈴木綺玖のセンター前タイムリーと敵失で2点を先制。倉敷も直後の4回表、四球、ワイルドピッチ等で二死三塁の好機を得て、7番・米村碧偉の三遊間を破るタイムリーで1点を返した。その裏、横須賀も四球、敵失等で一死二・三塁とし、2番・藤田利功のレフトへの犠牲フライで1点を加え、3－1とリードを広げた。

2点を追う倉敷は6回表、3番・寺本琉唯がファーストを強襲する当たりを打ち、打球がグラウンドを転々とする間に三塁まで進塁。次打者の四球、盗塁で無死二・三塁のチャンスをつかみ、一死後、6番・山元颯翔のセンターオーバーのタイムリーツーベースで二者が選り、3－3の同点に追いついた。しかし、その裏、横須賀もすぐに突き放し、この回先頭の8番・大學和真が三遊間を破る安打で出塁し、ワイルドピッチ、送りバントで三塁へ進塁。1番・興水耀太も敵失で出塁し、盗塁で一死二・三塁とすると、二死後、3番・亀田隼永の左中間を破るタイムリースリーベースで2点を勝ち越し。さらに4番・鈴木綺玖の三遊間をしぶとく抜くタイムリーでこの回3点目を加え、6－3とリードを広げた。最終回、倉敷の最後の攻撃を無得点に抑え、横須賀が9年ぶり6回目の栄冠を手にした。



決勝打を放った亀田隼永が大会MVPに☆

大会結果詳細、全試合イニングスコアは日本協会公式サイトで！

# 第19回春季全日本小学生女子大会

令和8年3月27日（金）～29日（日） 鹿児島県南九州市／南九州市知覧平和公園多目的球場 他  
記録提供：鹿児島県協会記録委員会



本大会は去る3月27日（金）～29日（日）の3日間  
にわたり、鹿児島県南九州市を舞台に開催された。

大会初日（27日／金）に1回戦・2回戦の計17試合、  
2日目（28日／土）に3回戦・準々決勝の計12試合、  
最終日（29日／日）に準決勝・決勝の計3試合が行われ  
た。

準決勝に駒を進めたのは、三郷35Jr.（奈良）、花の  
台ウィングス（神奈川）、上沖ブルースターズ（埼玉）、  
オールあきる野女子・葛飾ダイヤモンドガールズ（東  
京）の4チーム。大会最終日、小学生女子「春の日本一」  
の座をかけた頂上決戦に挑んだ。



小学生女子「春の頂点」の座をかけて激突！

〈準決勝〉 三郷35Jr. 3-16 花の台ウィングス

後攻の花の台は初回、敵失で出塁した走者が盗塁、ファーストゴロで三塁へ進塁。一死三塁のチャンスを作ると、3番・川添莉央の二遊間を抜く適時打で1点を先取。さらに、4番・山岸詩、5番・粟飯原和香の連打で一死満塁と攻め立て、6番・草地絢乃の二遊間を破る適時三塁打で走者を一掃。7番・真仁田葉月も死球で続き、すかさず盗塁。二死後、9番・荒川真結子の打球が敵失を誘い、その間に二者が生還。初回にいきなり6点を挙げ、大きくリードを奪った。花の台は2回裏にも4番・山岸詩の2点適時三塁打とワイルドピッチ、敵失等で6点を追加。3回裏にも3点を加え、早々に勝負を決めてしまった。

三郷は4回表に4番・松田咲空、6番・松田未空の適時打等で3点を返したが、反撃もここまで。序盤の大量失点が重くのしかかり、3-16で敗れ、準決勝で姿を消した。

〈準決勝〉 オールあきる野女子・葛飾ダイヤモンドガールズ 5-6 上沖ブルースターズ

あきる野・葛飾は4回表、一死から3番・福森海の二塁打と敵失、故意四球で一死満塁とし、6番・中根葉月のキャッチャー前へのバントが相手守備の乱れを誘い、三塁走者がホームイン。なお一死満塁のチャンスが続き、7番・宮澤もかのピッチャーへの内野安打の間に2点目。8番・奥山結葉の左前適時打で三塁走者が還り、この回3点を先制した。その裏、上沖も一死から3番・四辻柳彩、4番・安江沙月、5番・佐藤聖夏の三連打等で2点を返し、1点差に迫ると、5回裏にも、一死から代打・岩佐帆夏が左前安打で出塁し、盗塁。ワイルドピッチで三塁へ進み、1番・新堀郁織の三遊間を破る適時打で同点に追いつき、試合を振り出しに戻した。

試合はそのまま延長タイブレークへ入り、8回表、あきる野・葛飾はタイブレークの走者を二塁に置き、一死後、ファーストゴロの間に三塁へ進塁。二死三塁とし、4番・吉本千咲の打球が相手守備の乱れを誘い、三塁走者がホームイン。さらに5番・Amara Sakuraが右中間を破る適時二塁打を放ち、2点を勝ち越した。

その裏、上沖はタイブレークの走者をサードゴロで三塁に進め、4番・安江沙月の左中間を抜く適時二塁打で1点を返し、5番・佐藤聖夏のピッチャーゴロの間に二塁走者が三塁へ進塁。続く6番・羽生妃那が三振振り逃げとなる投球が逸れる間に三塁走者が生還し、5-5の同点に追いついた。さらに7番・新實芽依への初球がワイルドピッチとなり、一塁走者が一気に三塁へ進塁。続く2球目もワイルドピッチとなり、三塁走者がサヨナラのホームイン！ 6-5で上沖が競り勝ち、決勝へ駒を進めた。



接戦を制した上沖が決勝進出！

《決勝》 花の台ウィングス 8-7 上沖ブルースターズ

決勝は序盤から激しい点の取り合いとなり、初回に花の台が3点を取れば、2回裏に上沖が4点を奪い返し、3回表に花の台が2点を挙げ、再びリード。その裏、上沖も2点を奪うという二転三転の試合展開となった。

5-7で2点を追う花の台は迎えた5回表、この回先頭の5番・粟飯原和香、6番・草地絢乃の連打とワイルドピッチ等で一死二・三塁の反撃機を得ると、8番・水川四葉の中前適時打でまず1点。センターから三塁への好送球で二塁走者が三塁でアウトとなる間に打者走者が二塁へ進み、二死二塁となった後、9番・荒川真結子の左前適時打で二塁走者が一気に生還し、7-7の同点に追いついた。

同点で迎えた最終回、花の台は二死走者なしから1番・井上心優が「キャプテン」の意地を見せ、ピッチャー強襲安打。2番・小野莉奈もサード強襲安打で続き、3番・川添莉央のショートへの当たりが敵失を誘い、二塁走者が勝ち越しのホームイン！ その裏、上沖の最後の攻撃を三者凡退に抑え、花の台が初優勝を手にした。

最終回、花の台のキャプテン・井上心優が「執念」のホームイン！



大会結果詳細、全試合イニングスコアは日本協会公式サイトで！

# ◆第55回日本男子リーグ第1節◆



第1節には例年と同じく「リーグ加盟全チーム」が集結。選手たちのハイレベルな攻防はもちろんのこと、主管である広島県ソフトボール協会・尾道地区ソフトボール協会の皆さんも一丸となって審判員・記録員・大会運営に奔走。尾道市が全国に誇る「4面同時進行が可能なソフトボール専用球場」をフル稼働させ、熱戦を支えた。



日本男子リーグ「2026シーズン」開幕！

「第55回日本男子ソフトボールリーグ」の開幕となる「第1節」が、去る4月10日（金）～13日（月）の4日間（※雨天により1日順延）、広島県尾道市／御調ソフトボール球場を舞台に開催された。



前年王者・大阪桃次郎は1勝3敗と出遅れ…

全体の結果（順位争い）としては、前年王者・大阪桃次郎が1勝3敗と黒星先行スタート。安川電機、Hondaが「無傷」の4連勝で「開幕ダッシュ」に成功し、同率3位には3勝1敗で6チーム（平林金属、RINOBLAZE、ジェイテクト、トヨタ、愛媛ウエスト、日本エコシステム、SAGAダイワアクト）が並ぶ混戦模様。9位は2勝2敗のデンソー、同率10位には1勝3敗で大阪桃次郎、三重ヴェルデウイン、高知パシフィックウエーブ、山口水産、豊田自動織機、旭化成、大阪・堺グローバル、熊本嶋田クラブの8チームがひしめき合い、埼玉県庁クラブは勝ち星なしの4連敗（18位）と苦しい滑り出しになった。



「サウスポ」のエース・海邊和也を軸とし、4戦全勝の安川電機



昨年の決勝トーナメント辞退から「再出発」を図るHondaも4連勝



**ソフトボールに、  
「懸けて」!!  
第2節はどうなる!?**

# ◎第1節終了時点 全チーム勝敗・順位

<b>1位</b>	<b>安川電機</b>	<b>4勝0敗</b>
//	<b>Honda</b>	<b>4勝0敗</b>
<b>3位</b>	<b>平林金属 RINO BLAZE</b>	<b>3勝1敗</b>
//	<b>ジェイテクト</b>	<b>3勝1敗</b>
//	<b>トヨタ</b>	<b>3勝1敗</b>
//	<b>愛媛ウエスト</b>	<b>3勝1敗</b>
//	<b>日本エコシステム</b>	<b>3勝1敗</b>
//	<b>SAGAダイワアクト</b>	<b>3勝1敗</b>
<b>9位</b>	<b>デンソー</b>	<b>2勝2敗</b>
<b>10位</b>	<b>大阪桃次郎</b>	<b>1勝3敗</b>
//	<b>三重ヴェルデウィン</b>	<b>1勝3敗</b>
//	<b>高知パシフィックウェーブ</b>	<b>1勝3敗</b>
//	<b>山口水産</b>	<b>1勝3敗</b>
//	<b>豊田自動織機</b>	<b>1勝3敗</b>
//	<b>旭化成</b>	<b>1勝3敗</b>
//	<b>大阪・堺グローバル</b>	<b>1勝3敗</b>
//	<b>熊本嶋田クラブ</b>	<b>1勝3敗</b>
<b>18位</b>	<b>埼玉県庁クラブ</b>	<b>0勝4敗</b>

※上位5チームが決勝トーナメントに進出



## 【大会第1日（4月10日）試合結果】

豊田自動織機 6-4 大阪桃次郎  
 SAGA ダイワアクト 4-1 愛媛ウエスト  
 旭化成 5-2 平林金属 RINO BLAZE  
 トヨタ 6-5 山口水産

## 【大会第2日（4月11日）試合結果】

ジェイテクト 5-2 豊田自動織機  
 デンソー 6-3 大阪・堺グローバル  
 Honda 1-0 大阪桃次郎  
 日本エコシステム 6-3 埼玉県庁クラブ  
 Honda 6-3 ジェイテクト  
 デンソー 5-4 三重ヴェルデウィン  
 平林金属 RINO BLAZE 5-0 大阪・堺グローバル  
 トヨタ 4-3 豊田自動織機  
 熊本嶋田クラブ 10-3 埼玉県庁クラブ  
 SAGA ダイワアクト 3-0 山口水産  
 愛媛ウエスト 1-0 高知パシフィックウェーブ  
 安川電機 1-0 旭化成

## 【大会第3日（4月12日）試合結果】

三重ヴェルデウィン 9-5 日本エコシステム  
 安川電機 3-1 高知パシフィックウェーブ  
 ジェイテクト 11-1 熊本嶋田クラブ  
 トヨタ 2-0 SAGA ダイワアクト  
 安川電機 5-2 トヨタ  
 日本エコシステム 13-2 熊本嶋田クラブ  
 大阪・堺グローバル 14-4 埼玉県庁クラブ  
 Honda 11-0 三重ヴェルデウィン  
 平林金属 RINO BLAZE 4-3 山口水産  
 大阪桃次郎 11-2 デンソー  
 愛媛ウエスト 3-1 豊田自動織機  
 高知パシフィックウェーブ 8-5 旭化成

## 【予備日（4月13日）試合結果】

日本エコシステム 12-0 大阪桃次郎  
 平林金属 RINO BLAZE 2-1 高知パシフィックウェーブ  
 愛媛ウエスト 5-4 旭化成  
 SAGA ダイワアクト 7-1 三重ヴェルデウィン  
 山口水産 10-0 熊本嶋田クラブ  
 ジェイテクト 6-3 デンソー  
 安川電機 10-3 埼玉県庁クラブ  
 Honda 9-1 大阪・堺グローバル

# 第1節の詳細レポート ダイジェスト動画はこちら！



ニトリ  
JD.LEAGUE



ニトリ JD.LEAGUE 2026 第1節



# 第1節

去る4月10日(金)、「ニトリJD. LEAGUE 2026」が開幕。「東地区」が群馬県高崎市、岐阜県大垣市の2会場、「西地区」が愛知県豊田市、愛媛県松山市の2会場・計4会場で華々しく「フライデーナイト」で開幕を飾る予定であったが、あいにくの悪天候で「東地区」大垣ラウンド、「西地区」豊田ラウンドが中止・順延。4月13日(月)に持ち越されることになった。

「東地区」では、昨シーズン「東地区優勝」を飾った戸田中央が連勝スタート。2試合で29得点、1試合7本塁打のリーグタイ記録を含む11本塁打と打線が爆発! 「連覇」へ向け、好スタートを切った。

同じくデンソー、NECプラットフォームズの2チームも連勝スタート。3チームが「同率首位」に並ぶ形となり、2勝1敗のホンダがこれを追いかけている。

昨シーズン準優勝、「王座奪還」を狙うビックカメラ高崎は「ホーム」で開幕を迎えながら「まさか……」の1勝2敗と負け越し。「レジェンド」上野由岐子が開幕戦で途中降板。それに続く存在である勝股美咲もケガで登板できず苦しい台所事情。戸田中央戦では15失点と投手陣が打ち込まれてしまった。

太陽誘電は開幕3戦目で初白星を挙げ、1勝2敗。日立、大垣ミナモは開幕連敗のスタートとなってしまった。

「西地区」も波乱含みのスタート。開幕初戦を雨で流した「4連覇」を狙うトヨタは初戦となったSGホールディングス戦で0-1の完封負け。続く東海理化戦は10-2で大勝したが、雨天順延となった豊田自動織機戦では序盤3点をリードしながら投手陣が大炎上。4-10の大差で破れ、早くも2敗目を喫するという「想定外」のスタートとなってしまった。

そのトヨタを開幕初戦で破ったSGホールディングス、ジョージナ・コリック、マディソン・ペンタの新戦力を加えた投手陣が機能し、2試合連続の完封勝利を飾った日本精工が連勝スタート。「同率首位」に並んでいる。



SGホールディングスが開幕連勝の好スタート!

これを2勝1敗の豊田自動織機、伊予銀行が追いかけ、「王者」トヨタとSHIONOGIが1勝2敗。タカギ北九州、東海理化は開幕連敗のスタートとなっている。

ニトリ JD.LEAGUE 2026 第1節「東地区」高崎ラウンド 群馬県高崎市・宇津木スタジアム				
月日	試合結果			
4月10日(金)	ビックカメラ高崎	ピークイーン	2-3	ホンダ リヴェルタ
4月11日(土)	第1試合	ホンダ リヴェルタ	1-14	戸田中央 メディックス埼玉
	第2試合	ビックカメラ高崎	7-3	日立 サンディーバ
4月12日(日)	第1試合	日立 サンディーバ	10-12	ホンダ リヴェルタ
	第2試合	ビックカメラ高崎	4-15	戸田中央 メディックス埼玉

ニトリ JD.LEAGUE 2026 第1節「東地区」大垣ラウンド 岐阜県大垣市・大垣市北公園野球場				
月日	試合結果			
4月10日(金)	大垣 ミナモ	雨天順延		太陽誘電 ソルフィーユ
4月11日(土)	第1試合	太陽誘電 ソルフィーユ	0-2	デンソー ブライトペガサス
	第2試合	大垣 ミナモ	0-9	NECプラットフォームズ レッドファルコンズ
4月12日(日)	第1試合	太陽誘電 ソルフィーユ	3-4	NECプラットフォームズ レッドファルコンズ
	第2試合	大垣 ミナモ	0-2	デンソー ブライトペガサス
4月13日(月)	大垣 ミナモ	3-11		太陽誘電 ソルフィーユ

ニトリ JD.LEAGUE 2026 第1節「西地区」豊田ラウンド 愛知県豊田市・豊田市運動公園野球場				
月日	試合結果			
4月10日(金)	トヨタ レッドテリアーズ	雨天順延		豊田自動織機 シャイニングベガ
4月11日(土)	第1試合	東海理化 チェリーブロッサムズ	1-5	豊田自動織機 シャイニングベガ
	第2試合	トヨタ レッドテリアーズ	0-1	SGホールディングス ギャラクシースターズ
4月12日(日)	第1試合	SGホールディングス ギャラクシースターズ	3-2	豊田自動織機 シャイニングベガ
	第2試合	トヨタ レッドテリアーズ	10-2	東海理化 チェリーブロッサムズ
4月13日(月)	トヨタ レッドテリアーズ	4-10		豊田自動織機 シャイニングベガ

ニトリ JD.LEAGUE 2026 第1節「西地区」松山ラウンド 愛媛県松山市・マドンナスタジアム				
月日	試合結果			
4月10日(金)	伊予銀行 ヴェールズ	3-2		SHIONOGI レインボーストークス
4月11日(土)	第1試合	SHIONOGI レインボーストークス	2-1	タカギ北九州 ウォーターウェーブ
	第2試合	伊予銀行 ヴェールズ	0-7	日本精工 プレイベアリーズ
4月12日(日)	第1試合	SHIONOGI レインボーストークス	0-2	日本精工 プレイベアリーズ
	第2試合	伊予銀行 ヴェールズ	10-5	タカギ北九州 ウォーターウェーブ

**ニトリ JD.LEAGUE 2026****東地区 第1節終了時点 順位表**

順位	チーム名	勝敗	勝率
1位	戸田中央 メディックス 埼玉	2勝0敗	1.000
1位	NECプラットフォームズ レッドファルコンズ	2勝0敗	1.000
1位	デンソー ブライトベガサス	2勝0敗	1.000
4位	ホンダ リヴェルタ	2勝1敗	0.667
5位	ビックカメラ高崎 ビークイーン	1勝2敗	0.333
5位	太陽誘電 ソルフィュー	1勝2敗	0.333
7位	日立 サンディーバ	0勝2敗	0.000
8位	大垣 ミナモ	0勝3敗	0.000

**西地区 第1節終了時点 順位表**

順位	チーム名	勝敗	勝率
1位	SGホールディングス ギャラクシースターズ	2勝0敗	1.000
1位	日本精工 ブレイブベアリーズ	2勝0敗	1.000
3位	豊田自動織機 シャイニングベガ	2勝1敗	0.667
3位	伊予銀行 ヴェールズ	2勝1敗	0.667
5位	トヨタ レッドテリアーズ	1勝2敗	0.333
5位	SHIONOGI レインボーストークス	1勝2敗	0.333
7位	東海理化 チェリーブロッサムズ	0勝2敗	0.000
7位	タカギ北九州 ウォーターウェーブ	0勝2敗	0.000



激しく

熱く

5年目のJD.LEAGUE

選手・チームのプロフィール、試合結果、全試合のLIVE配信は JD.LEAGUE 公式サイトで

<https://jdleague.jp/>

## ソフトボールシーズン到来！



## 新たなシーズン それぞれの戦いが始まる

3月20日（金・祝）、「春の全国大会」（全日本大会）が始まり、「全国高等学校選抜男子・女子大会」の開催を皮切りに、「春季全日本小学生男子・女子大会」「都道府県対抗全日本中学生男子・女子大会」が開催され、「新年度」に入つた4月10日（金）、「第55回日本男子ソフトボールリーグ」「ニトリJ.D. LEAGUE 2026」が開幕。いきなりの悪天候、雨天順延を余儀なくされる開催地もあったが、本格的な「ソフトボールシーズン」の幕が開き、翌週の4月18日（土）には、「第59回日本女子ソフトボールリーグ」も開幕を迎え、11月まで長い「ソフトボールシーズン」が続いていくことになる。

選手・チームの皆さんは「日本」となることをめざし、審判員・記録員の皆さんはより正確で公平・公正なジャッジ、正確・迅速な公式記録の作成・提供をめざして、それぞれの「戦い」が続いていく。それだけにとどまらず、試合会場の設営・整備、大会運営を担当する皆さんは大会の何カ月も前から準備を重ね（準備が数年に及ぶこともある）、大会期間中の天気図・天気予報とにらめっこしながら万全の体制で大会に備え、臨んでくれている。「いい大会だった」そのたった一言を聞くために……それぞれの立場で日々「全力」を尽くし、戦っている。

## 日本男子リーグ JDリーグ



## 春の全国大会 (全日本大会)



# 事務局だより

## 男子U23日本代表チーム 世界の強豪と「激闘」展開！

4月25日～5月3日、コロンビア・シンセレホを舞台に開催された「第2回男子U23ワールドカップ」に男子U23日本代表チームが出場。

2023年アルゼンチン・パラナで記念すべき第1回大会が開催されて以来「2回目」となる今大会には、各大陸予選を勝ち抜いた11チーム（アジア・オセアニア…日本①、シンガポール⑩、オーストラリア⑥、ニュージーランド⑦、ヨーロッパ…チェコ⑨、デンマーク⑱、北中南米…ベネズエラ②、アルゼンチン③、カナダ④、メキシコ⑧、アフリカ…南アフリカ⑭）に開催国・コロンビア⑬を加えた合計12チームが出場。男子U23カテゴリーの「頂点」をかけた「激闘」が繰り広げられた（※○数字は2025年12月31日時点のWBSC世界ランキングの順位）。

大会の詳細については、次号／6月号にてお伝えする。



**成長・進化を続けて…**